



## 適切な種子予措について

秋田地区営農センター 石川 達也

### 種子予措

近年、ばか苗病の発生は増加傾向にあり、前年度に発生した場合、種子予措を行う作業場所に「ばか苗病」の原因菌が付着している可能性があります。防除には適切な種子予措（種子消毒・浸種・催芽）と作業場所の環境衛生（籾殻・米ぬか・粉塵等の清掃）が重要です。再度、浸種管理・作業場所の衛生管理を見直しましょう。

### ●作業のポイント

水稻種子の消毒済種子の使用薬剤が品種により異なります。**多品目を購入されている方は、必ず別々の容器で浸種してください。**

### ●種子消毒

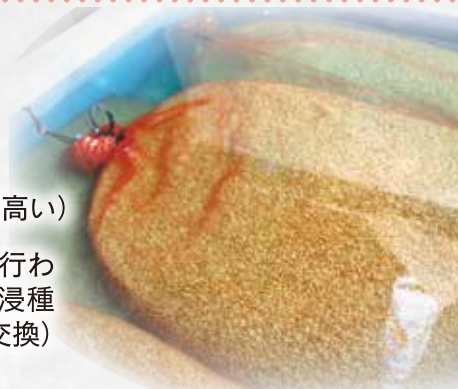
無消毒種子の場合は、塩水選、種子消毒を行ってください。

種子消毒	ヘルシード乳剤	ばか苗病・ごま葉枯病・いもち病	200倍 24時間種子浸種
	スターナ水和剤	苗立枯病・もみ枯細菌苗	200倍 24時間種子浸種
	テクリードCフロアブル	ばか苗病・ごま葉枯病・いもち病・ 苗立枯病・もみ枯細菌苗	200倍 24時間種子浸種
苗箱消毒	イチバン	多くの菌に効果 (特にリゾープス属菌)	500～1,000倍 瞬時浸漬または散布

※前年度にばか苗病やもみ枯細菌病が発生した場合は、必ず苗箱消毒を行ってください。

### ●種子管理手順

- 1 保管:** 湿気や水分の影響を受けない状態を保ちます。
- 2 浸種(水量):** 薬剤濃度を保つため、浸種開始時の水量は、種子容量の2倍程度とします。(※種子1kgに対し水量3.5L)
- 3 浸種(水温):** 浸種水温を10～15℃に保ちます。(防除効果が高い)
- 4 浸種(水の循環・交換):** 最初の2日間は催芽機での水循環は行わないようにしてください。病原菌が蔓延する可能性があります。浸種開始後2日間は水の交換はしません。(※その後2～3日毎に交換)



### ●催芽

浸種の終わった種子は人肌程度のお湯(36～40℃)に湯通しします。種子全体の温度を上げ発芽阻害物質を除いて(30～32℃)催芽します。**品種によっては催芽時間が異なるため、他の品種との同時処理は行わないようにしましょう。**